





叙



笑竇之岳高峻勝際甲於天
 下絕頂接天盛夏封雪故古
 今畫家無不寫之以供展翫
 者其間名於世者亦不復鮮
 矣或圖春景或寫秋景漫其

亭

山而望者徒某野而觀在帶
月雲者帶風雨者帶朝霞者
帶暮靄者無不具體而出者
唯是菡萏之挂逸天也各地
異觀四時殊景朝暉夕陰烟
雲出沒容態變遷奇觀世窮

在畫家亦致意于此古畫及人
君錫風流佳致衆技兼善畫
居其一焉壯好遊足跡半
天下以故每觀芙蓉色景於
名畫即就揮毫焉漸次累功
殆盈百數此之諸家豈惟每

體有美趣所謂詠事未嘗因
及者亦如取諸素底至善其錫
所為專在於師造化而已今也
悉命之剗氏并取古今所
寫其殊絕而當意者摹擬以
雜其間因諸當世作者各就



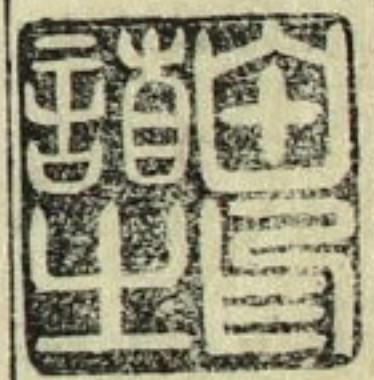
高々采采一毛如角其採ハ
の程の大和乃強々采采ハ
ありてその采の氣色は海の
と、亦其采の芝山巖志をく
采采の采を採あら一采采

東都乃隱士河村正幸書六
遊心画のありき風雅の
人。凡そ其藏呼ぶ書存然
始とて由子此海ハ一杖松を
之。沙見坂上馬城と久末志心
凡系と寫す西より好しとら

其園而題詠之嗚呼俾覽者
不出戶遊烟中山色は沸在
於几席間無濟縁之具而有
登臨之樂豈不愉快乎其或
欲圖寫其宏勝景者取途於
此亦以難為之者是為序

丁亥秋日

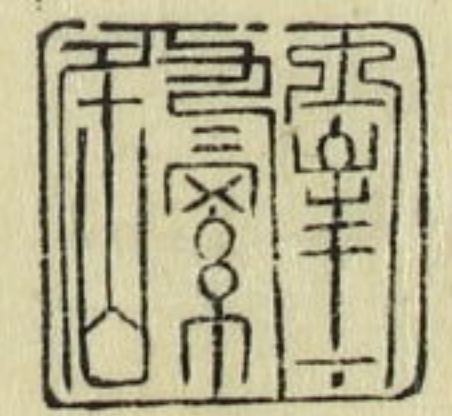
柳洲田謙之題



おけ甲斐の縁農家や田舎に
まを我々釜山の之れもハ
おと宿の遠くお然れ晴天乃
七十二茅屋谷子越くハ
色、の如にみてるは僕共此
意知小くそ、れはしとる

又似し孝悌之なる此序を
あへ高き辞せん

芙蓉峯隱士義松書之



百留士此序

和歌之体一繪一宗一世一其一其一其一其一其一
中由も夏もね書寫のひやさ人の國海へ笑して
名もいふ事乃ち稱ふ也一其一其一其一其一其一
此序の六部合せらるる也画をも又その中からり此れ序
繪より代はひてとを世探出妙なるもの笑しを
去秋の早もく乃祈をあらめいらるる相一其一

とう標のりたること南さきいけ一帳とありあつた
 門松をまじへる川乃系とていふが、いふ所は、
 して身代乃風情といふこと、いふこと、いふこと、
 成るまゝ、白菊と名付かゝる、世に消るせぬ、
 ゆる耐考ぬきとあり、いふこと、いふこと、
 の和曰、丁、白菊乃古月、白菊、例の約、後、
 香、
 第、
 想

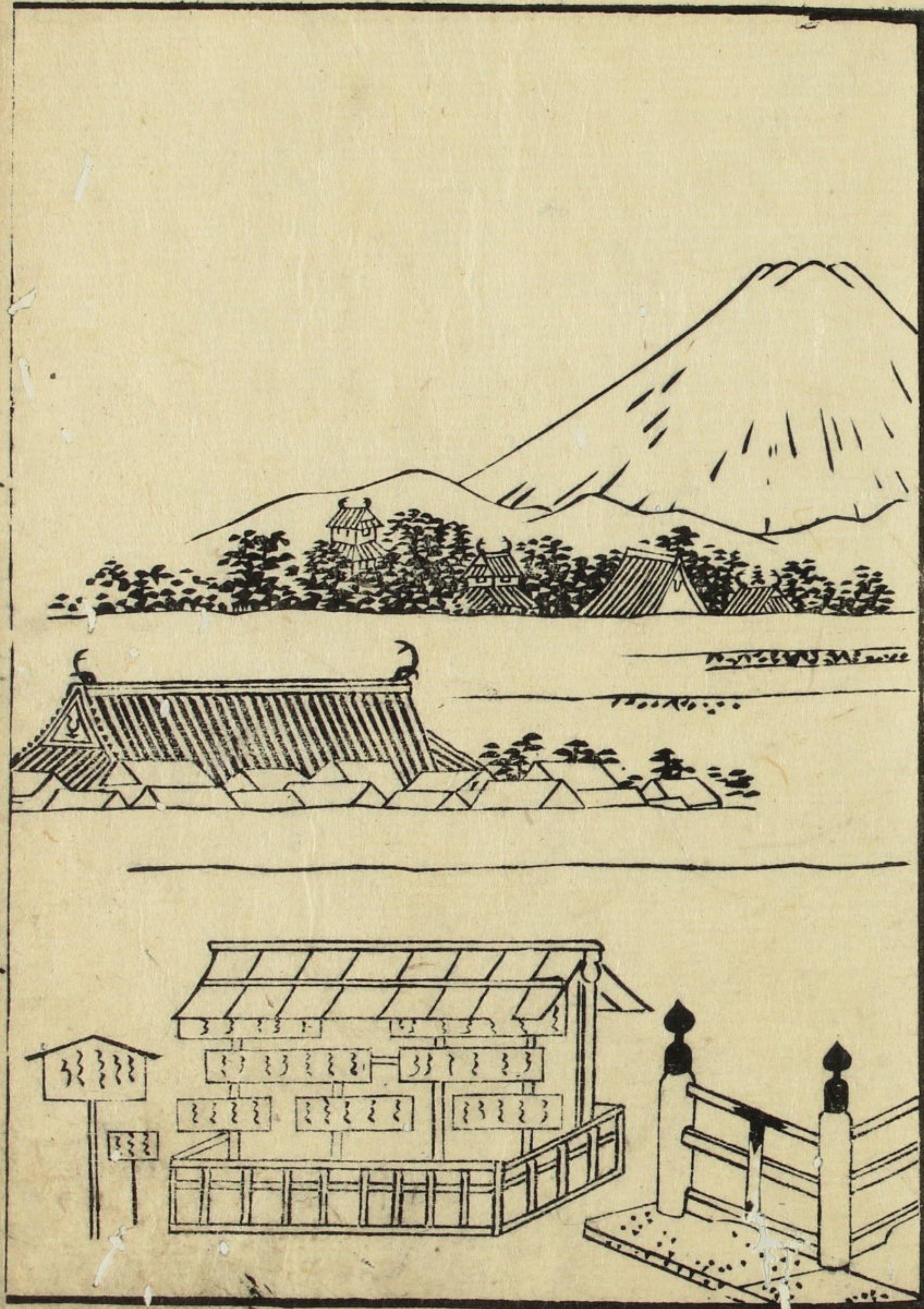
百
 風
 立



か
つ
ち
の
尾
草
や
秋
の
富
士
窪
村
主
素
齋



武
藏
野



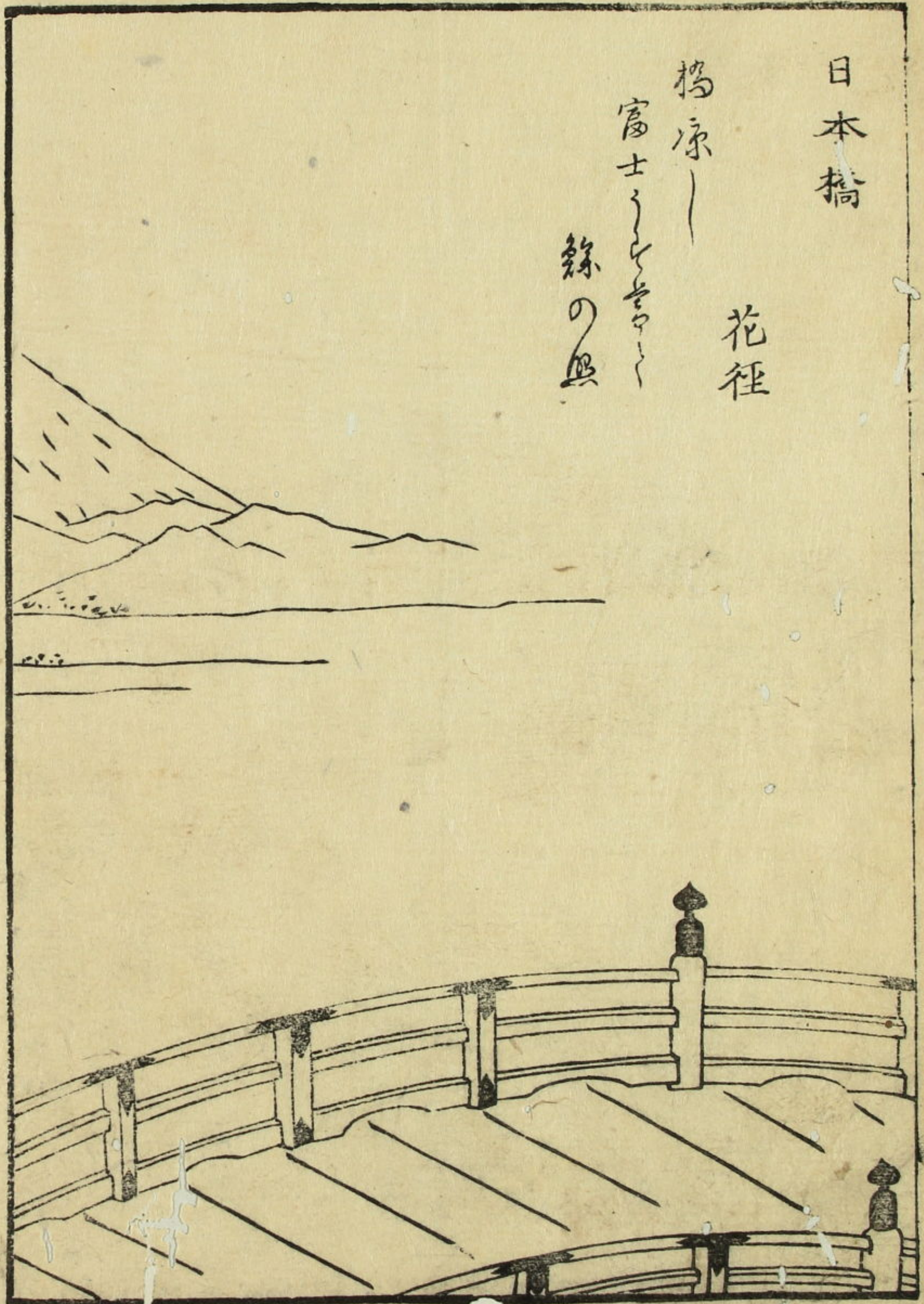
日本橋

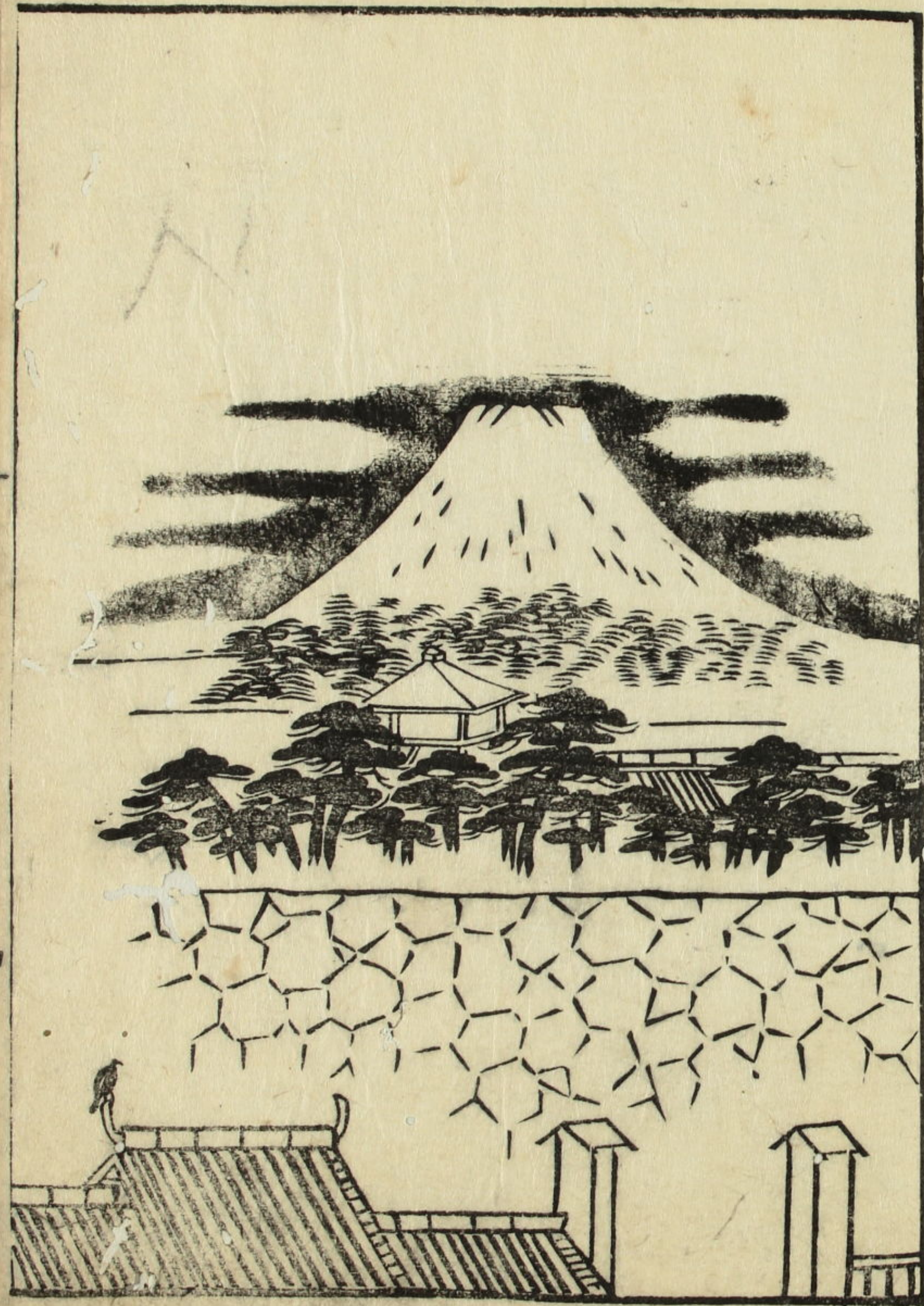
花徑

楊涼

富士くさき

糸の魚





駿河町

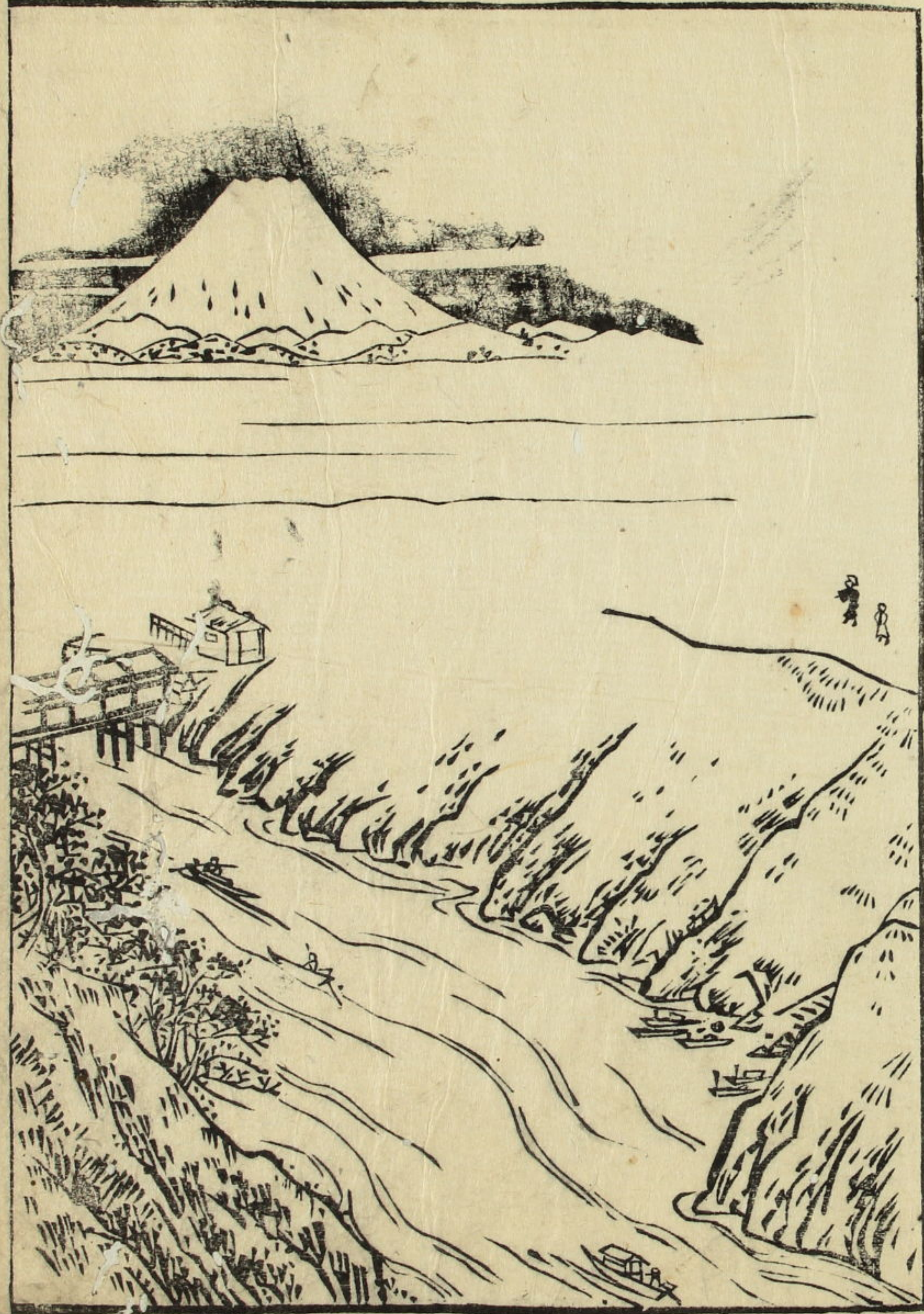
富士原

裾野小浜

鳳城下

朱雁





御茶氷

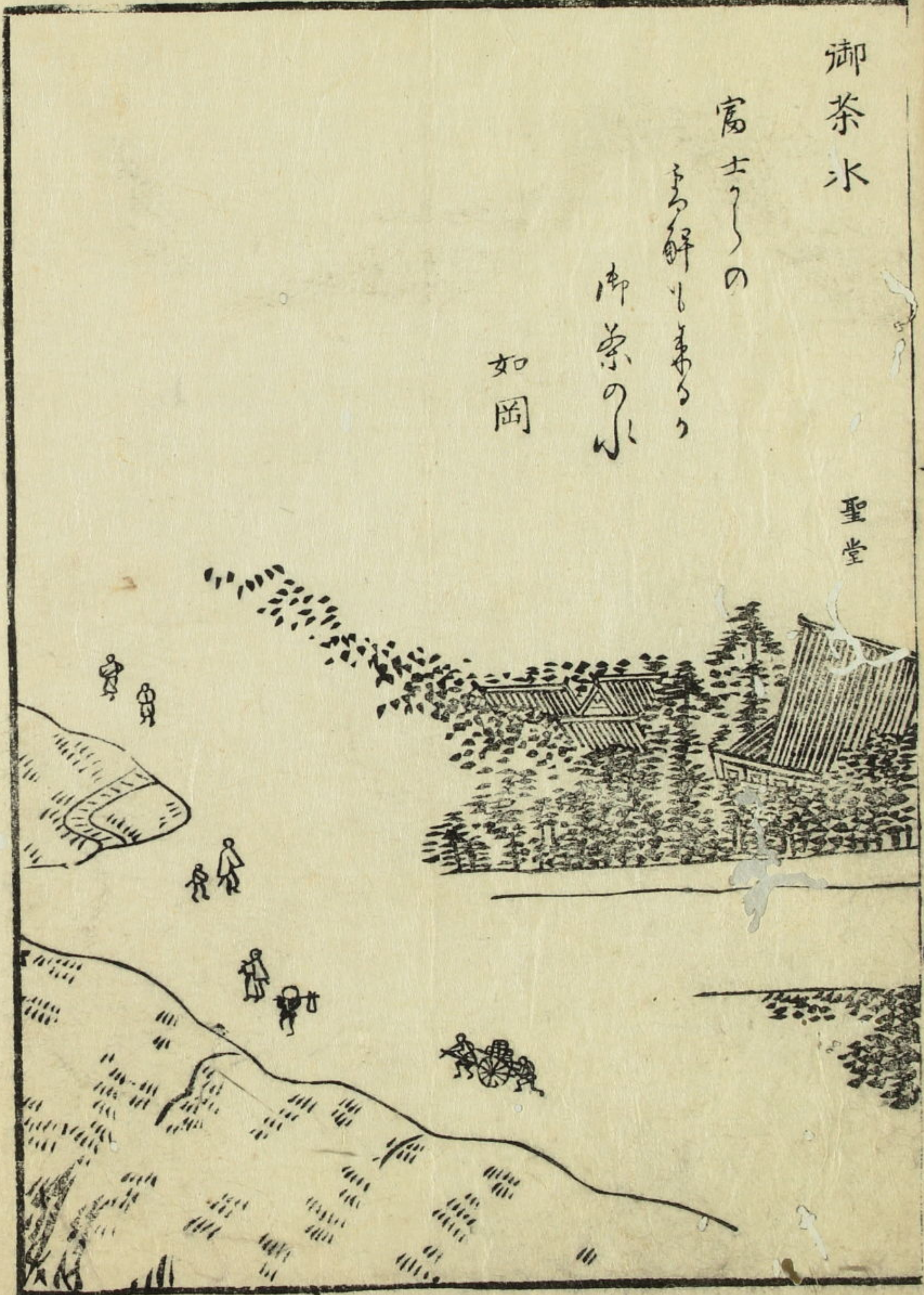
富士の

ふりもあがり

御茶の

如岡

聖堂





駿河臺

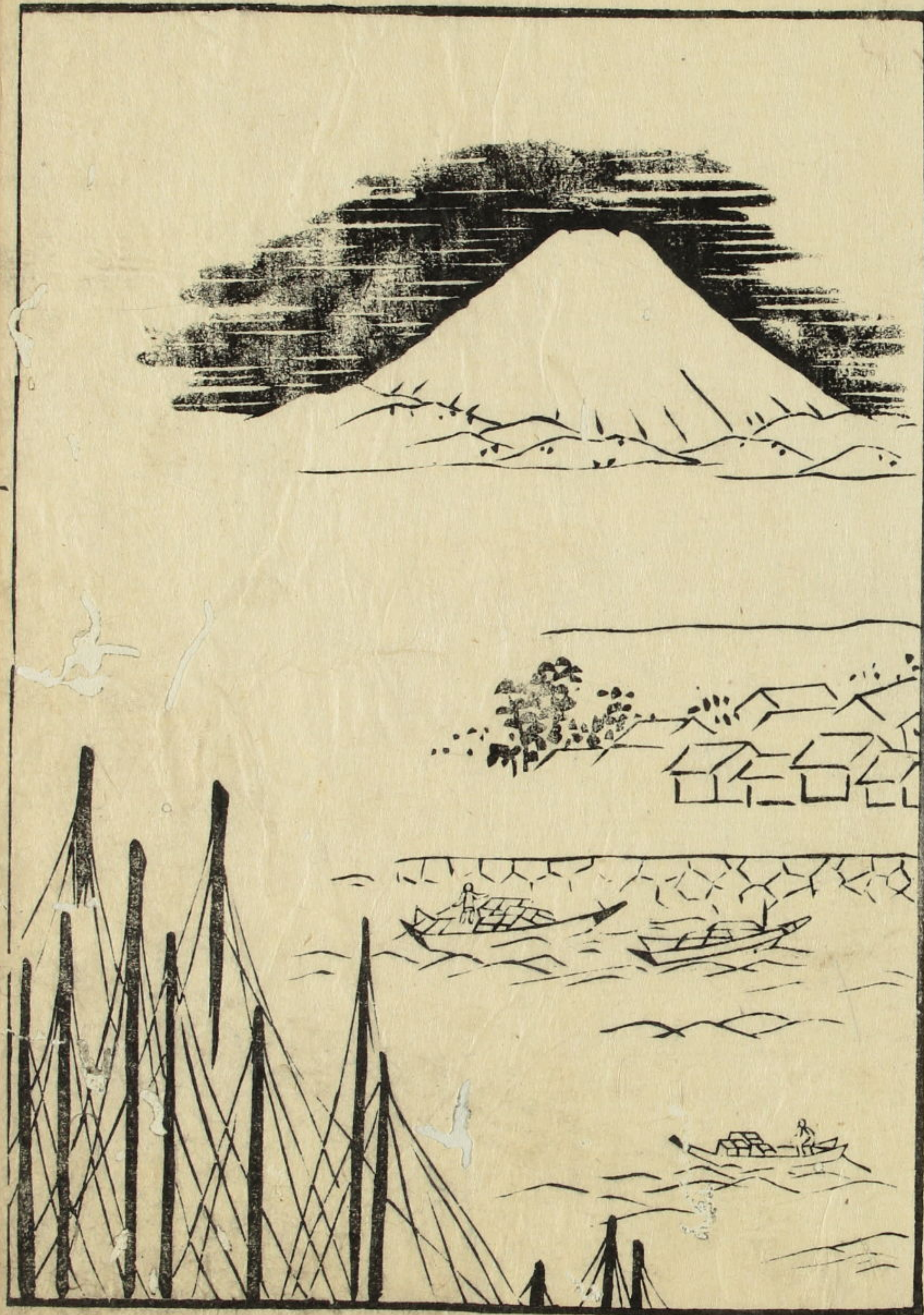
富士の松や

さうくとちの

まゝの

免来

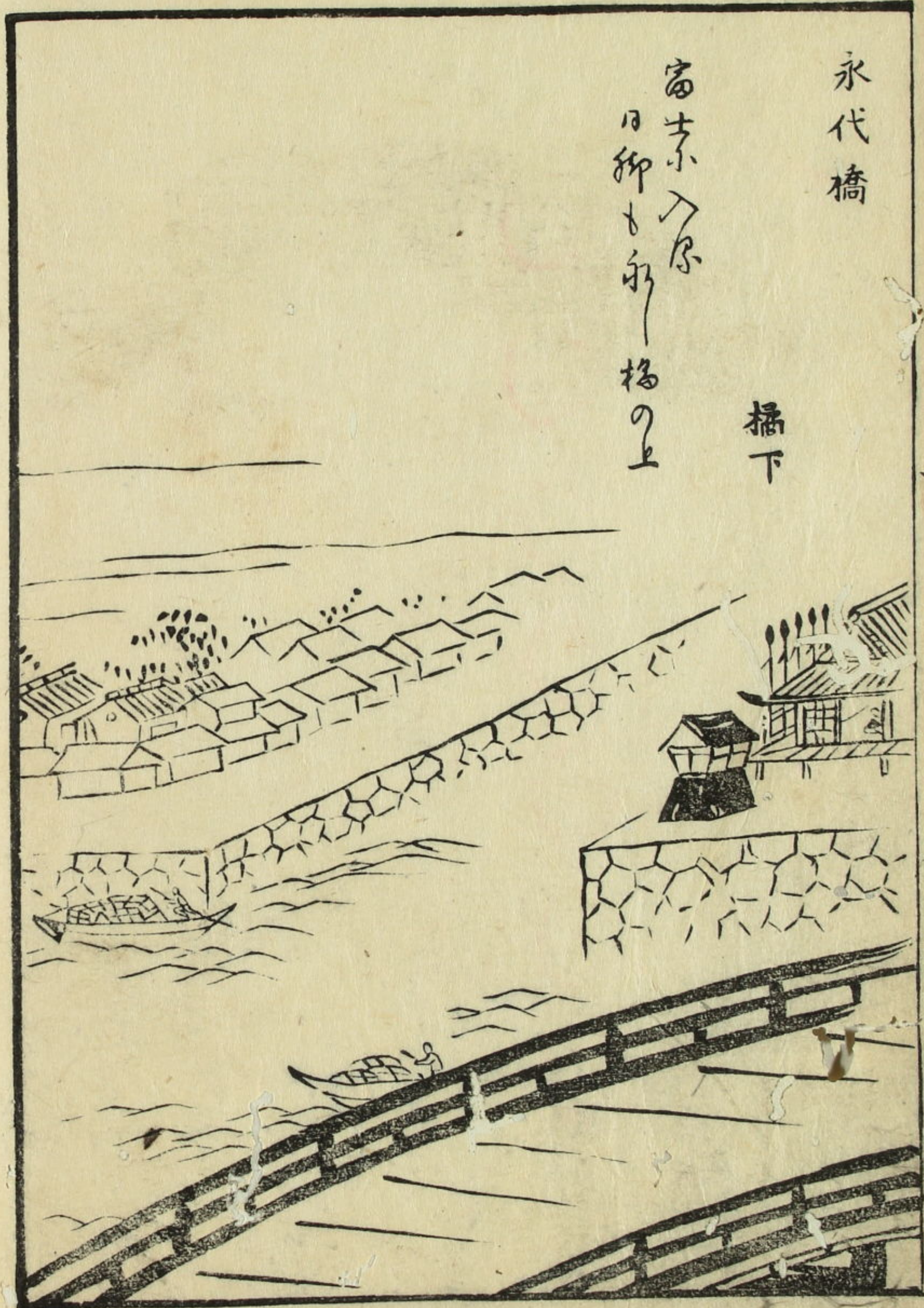




永代橋

橋下

富来入原
日柳も新橋の上





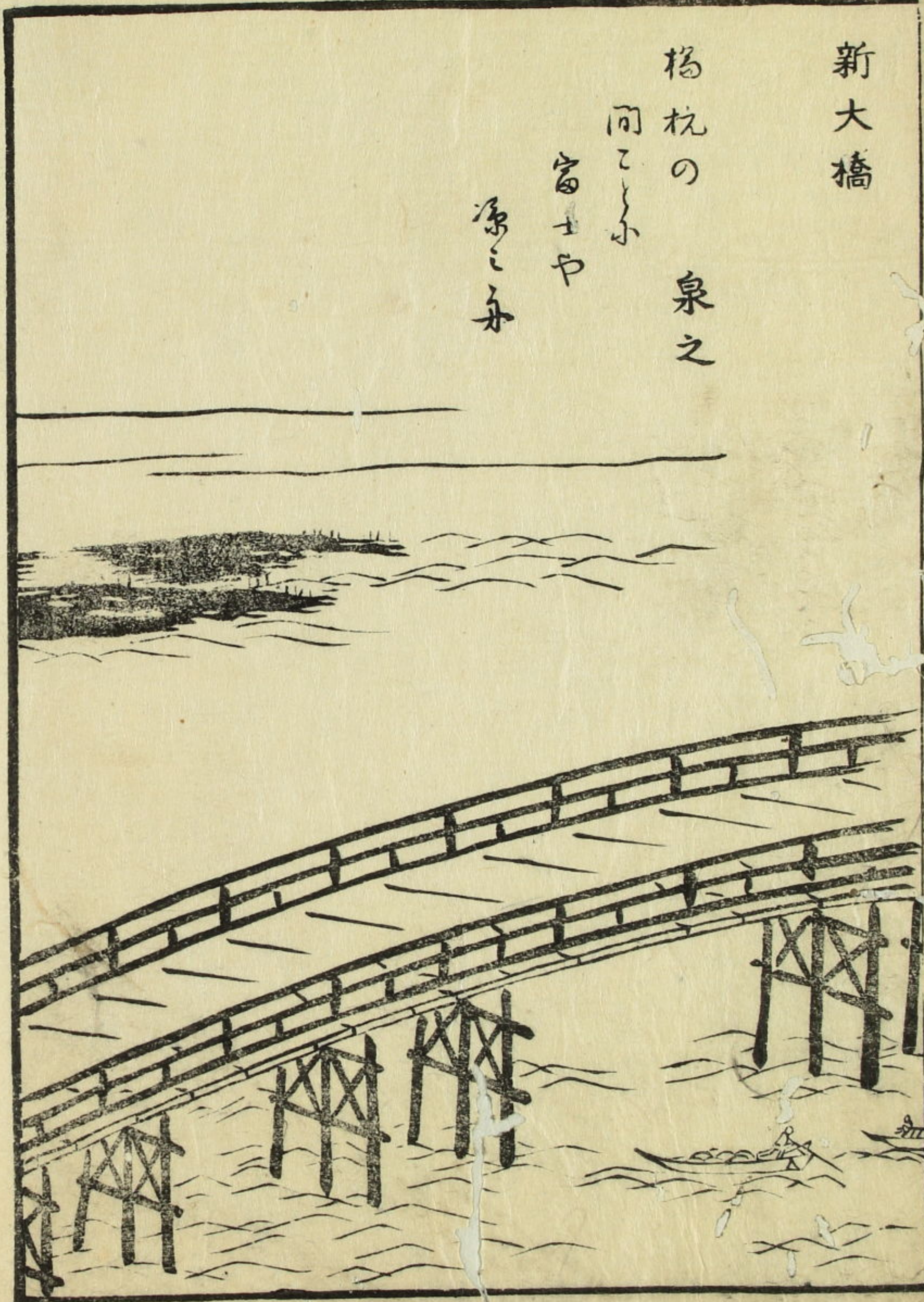
新大橋

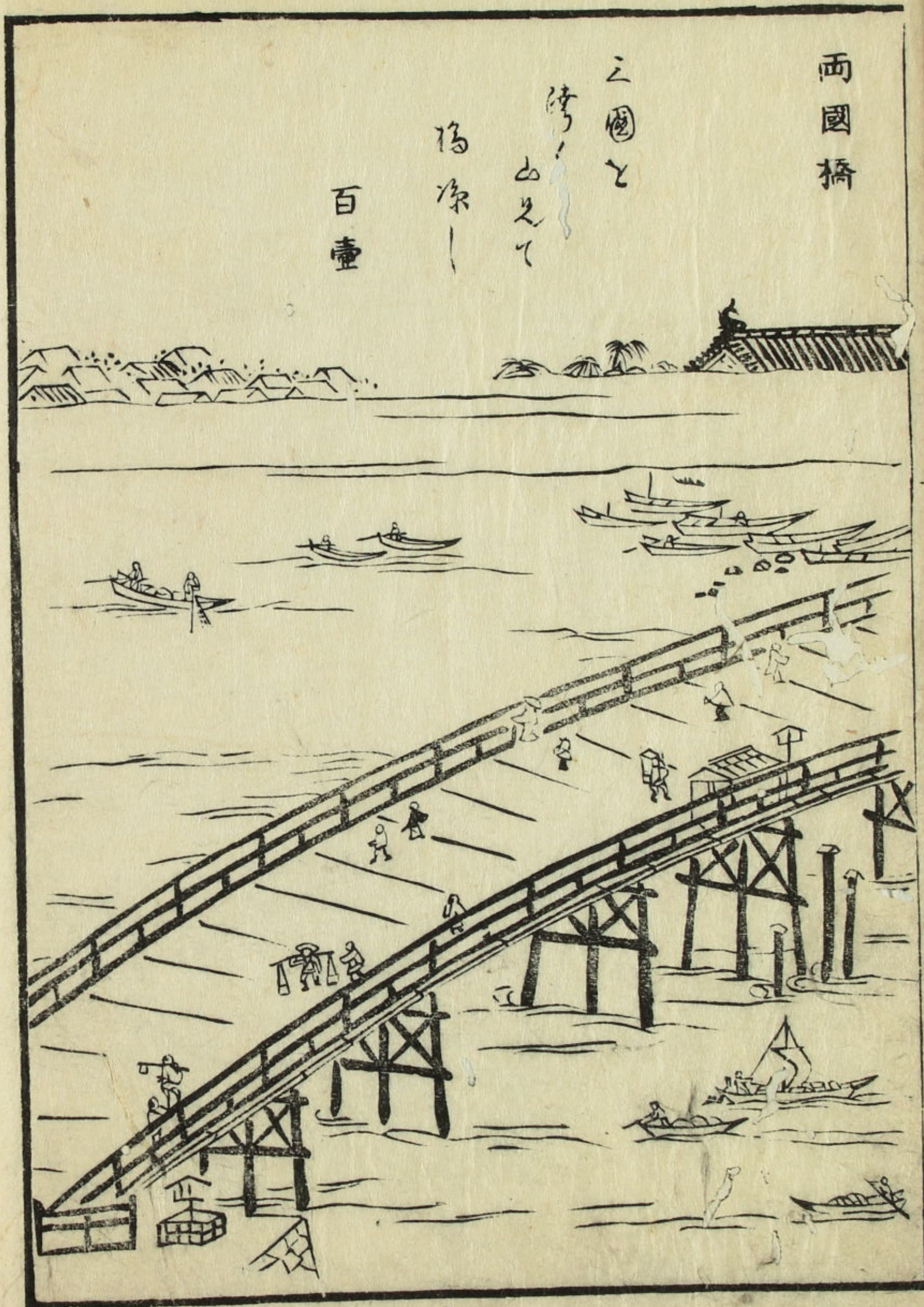
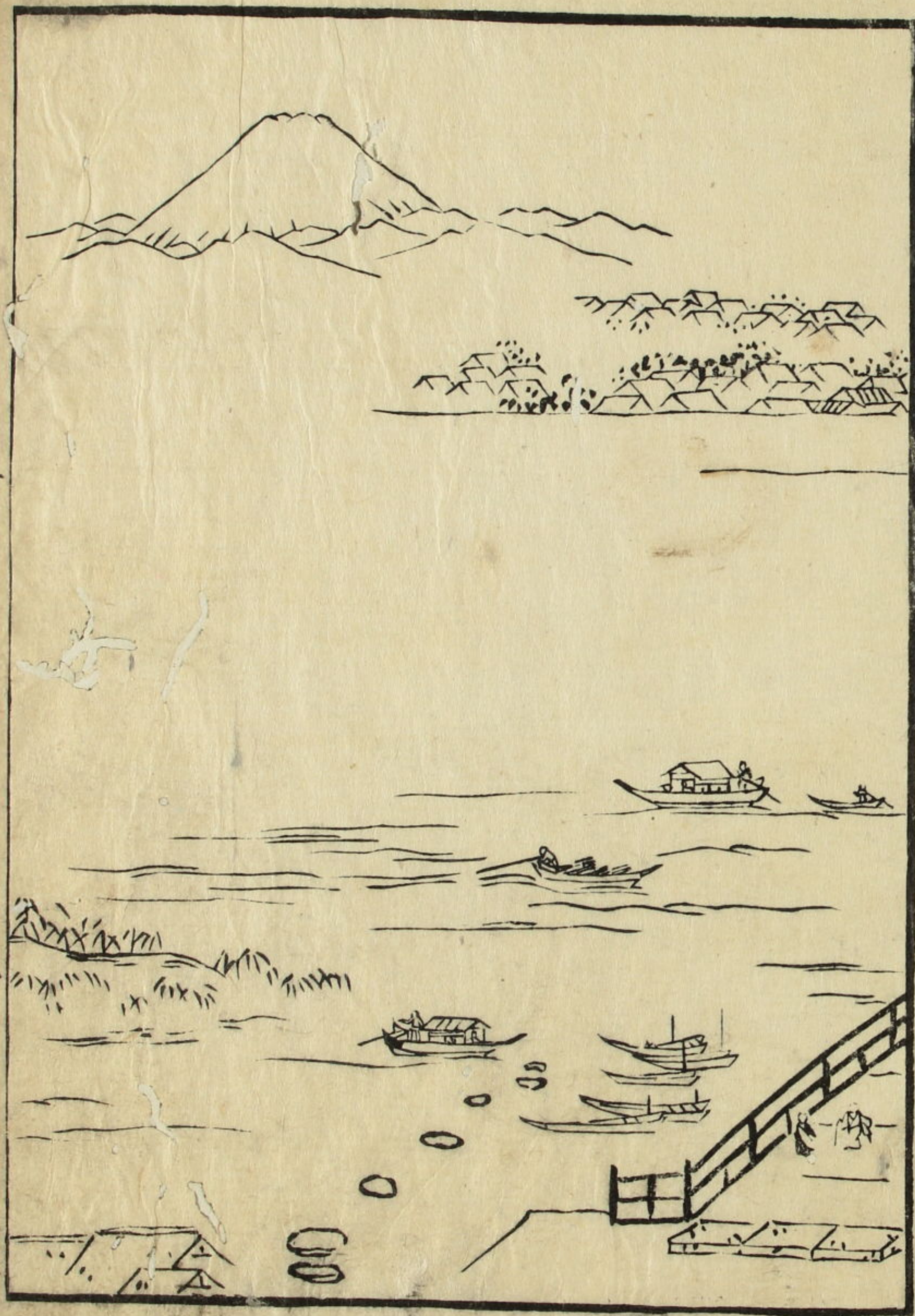
楊杭の泉之

同くふ

富士や

源の舟





兩國橋

之圖と

山見て

橋

橋原

百壺



石川島

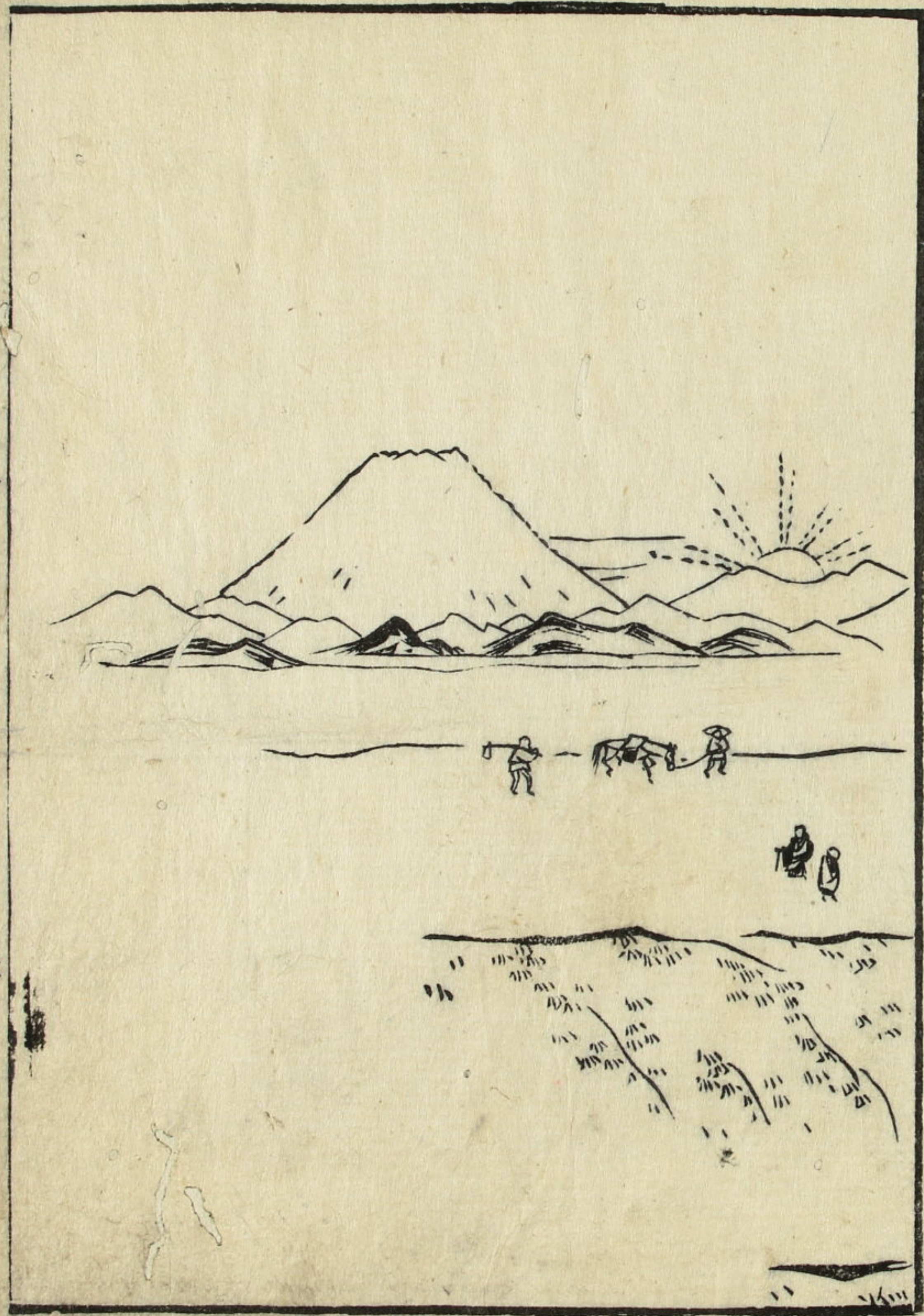
舟晴れく

不二と後り

いづれ船

鷺洲





三圍山

富士と画子

うらとねの

去来つゝ

春江





玉島山

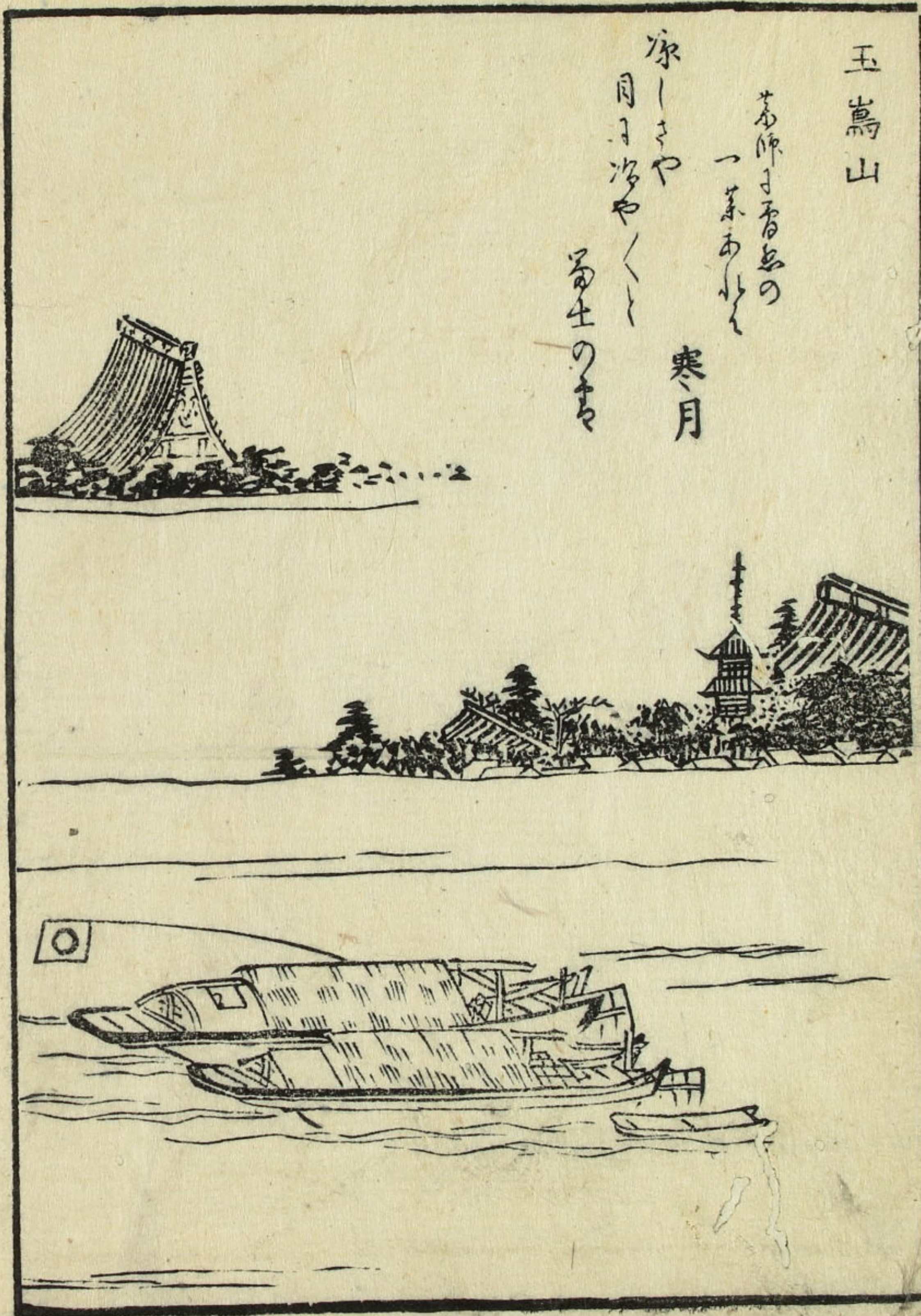
さあゆみ香の
一葉あはれ

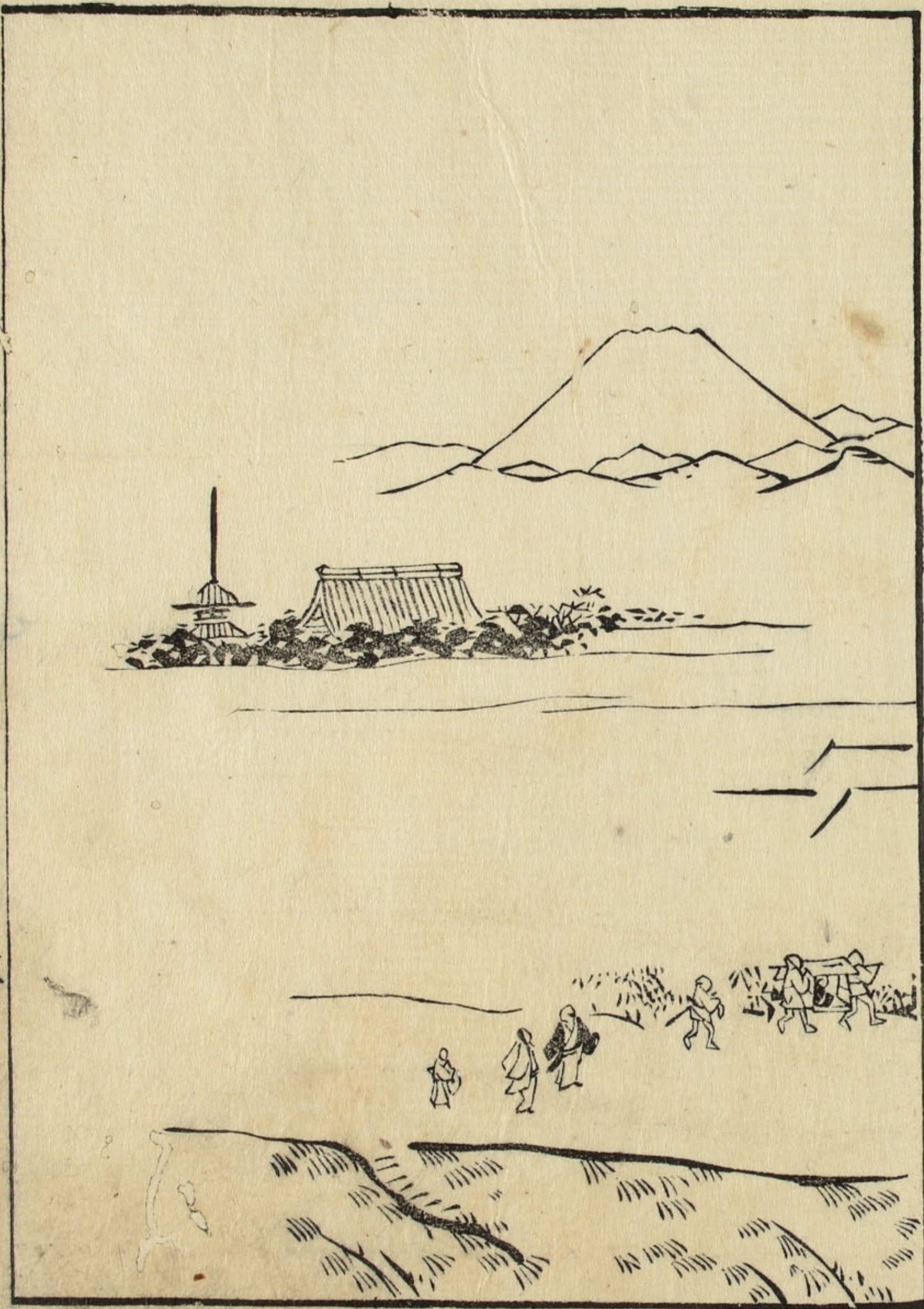
涼しきや

月日冷や

る土のち

寒月





日本堤

風と富士と後。や

その時

蘭室

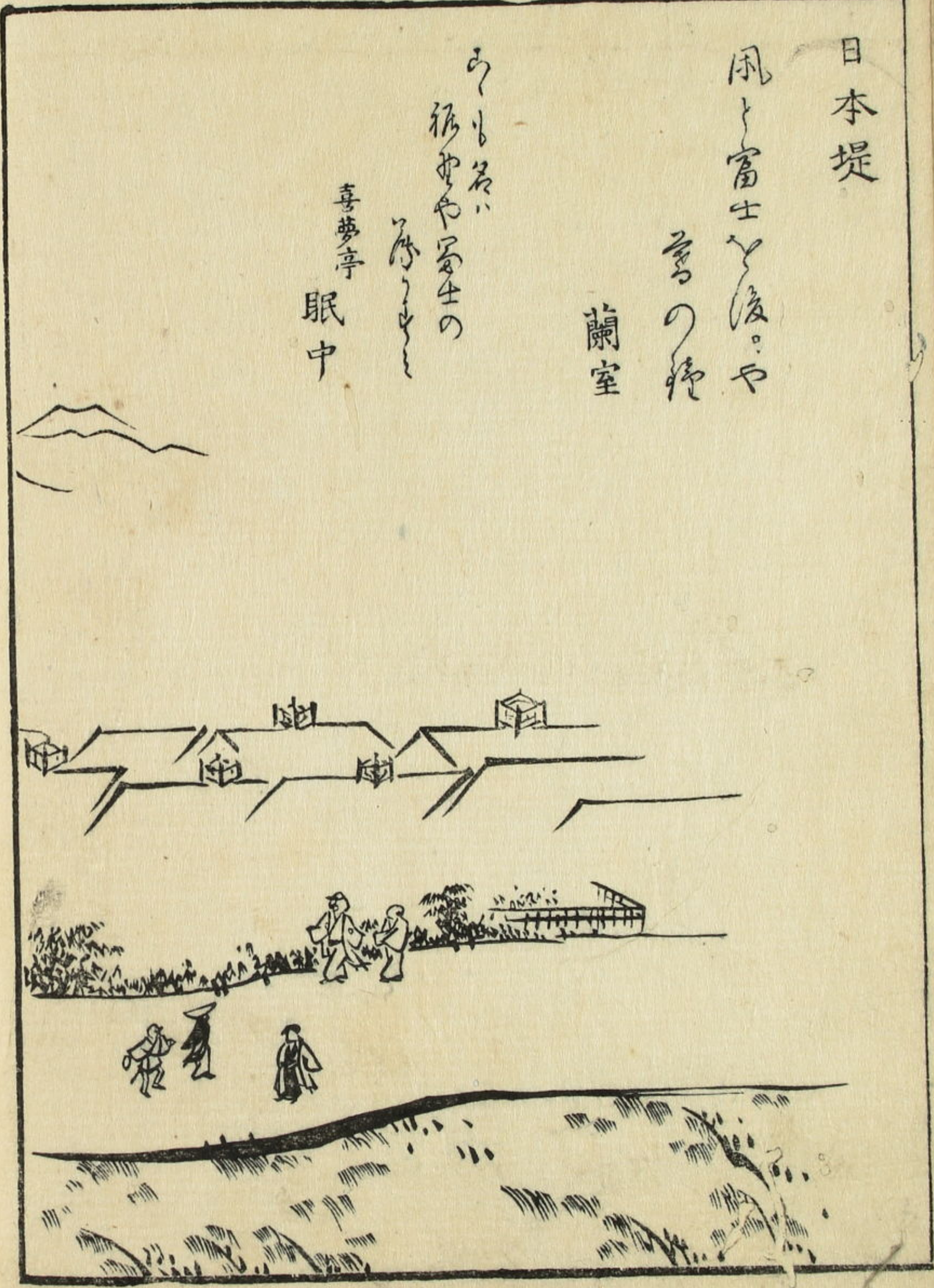
みよるが

旅中や富士の

みよるが

喜夢亭

眠中





木母寺

古
2

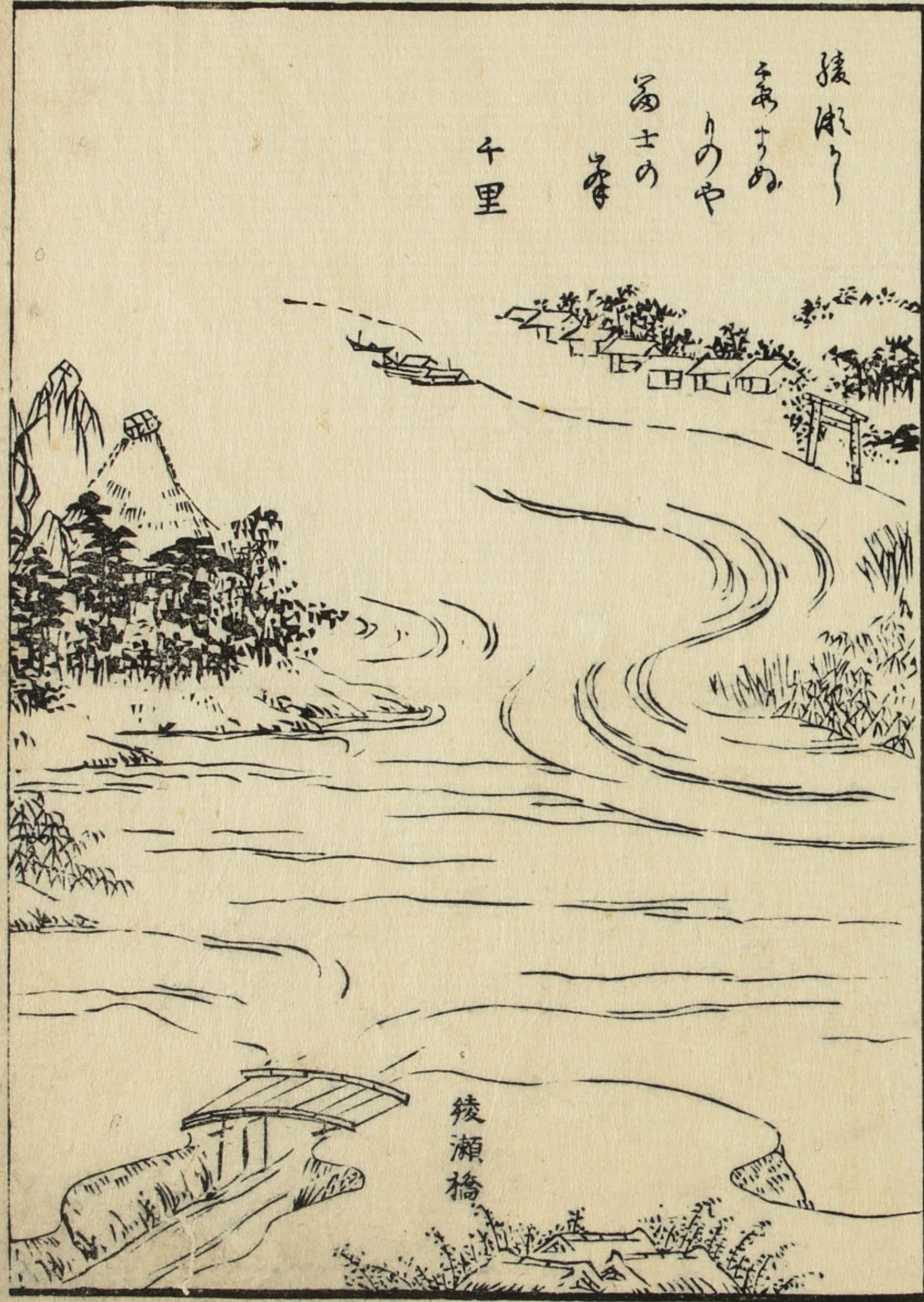
隅田川

富士の根のまふ
 ー~~~~うねまふ
 や~~~~園やの
 ー~~~~ろくろ

黙守菴
 宗朝

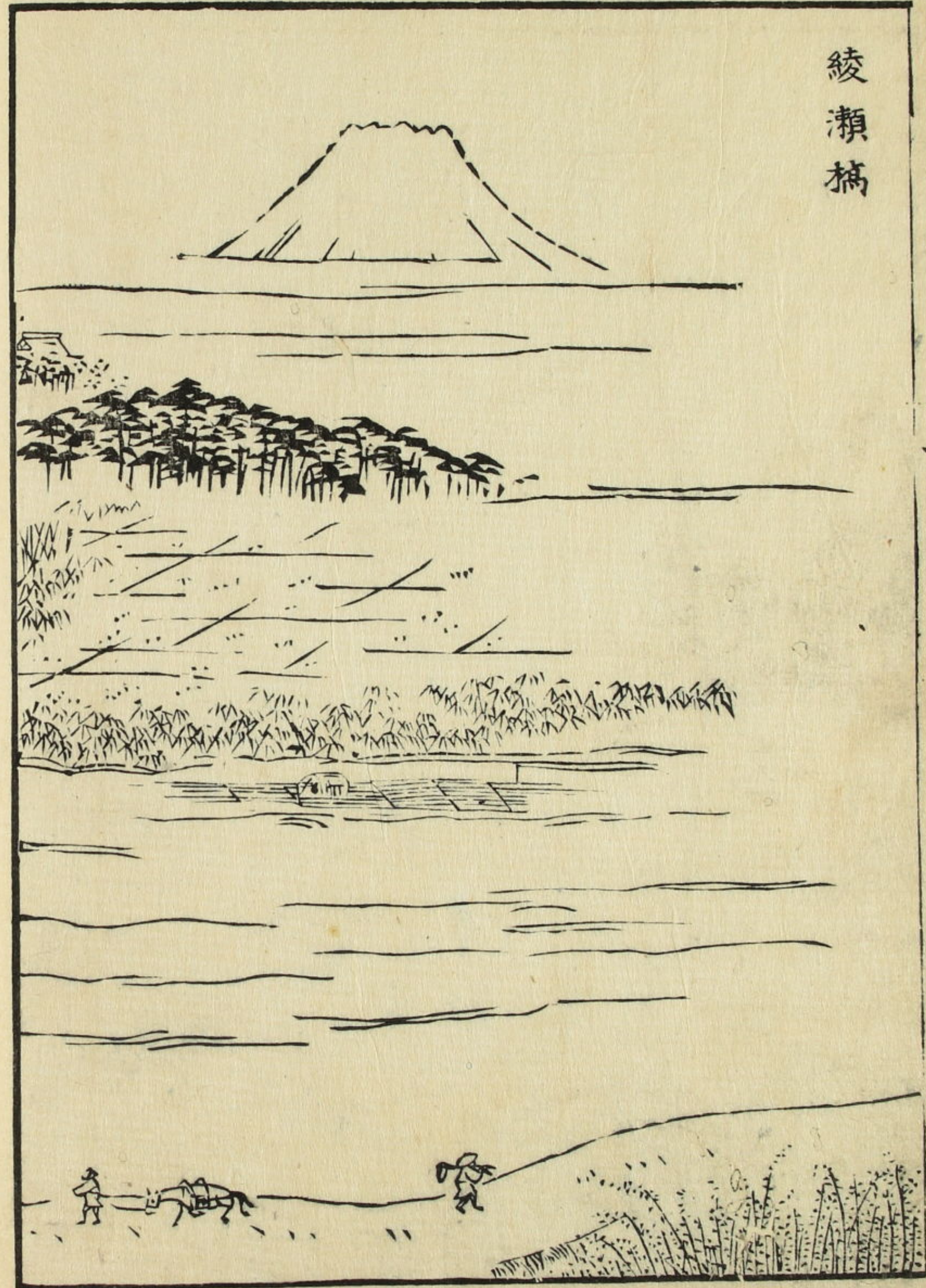


関屋里

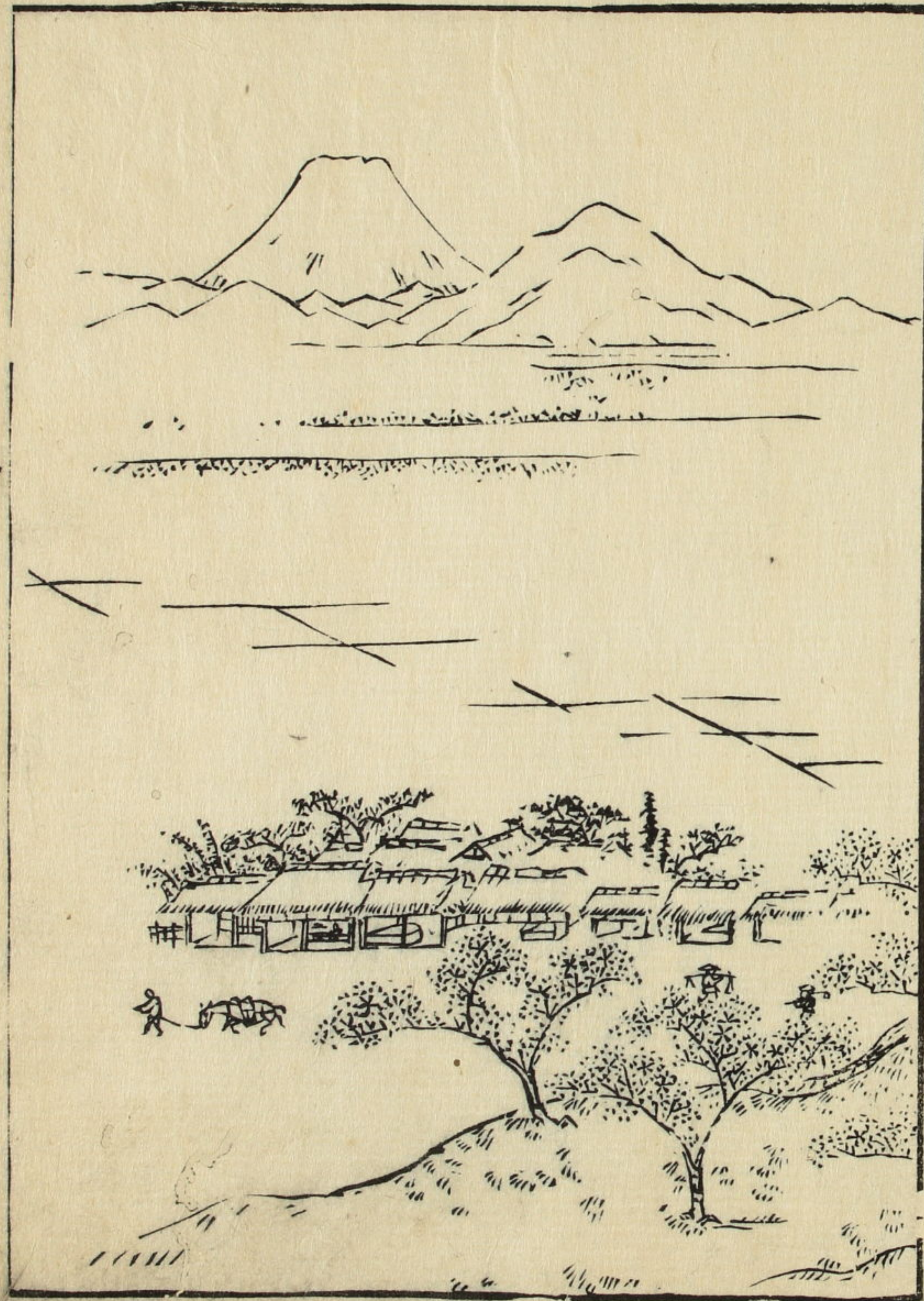


後
 千
 里
 山
 の
 や
 師
 の
 家

綾
 瀬
 橋



綾
 瀬
 橋



飛鳥山

花のちり

和名も深し

富士のちり

義松





撞木橋

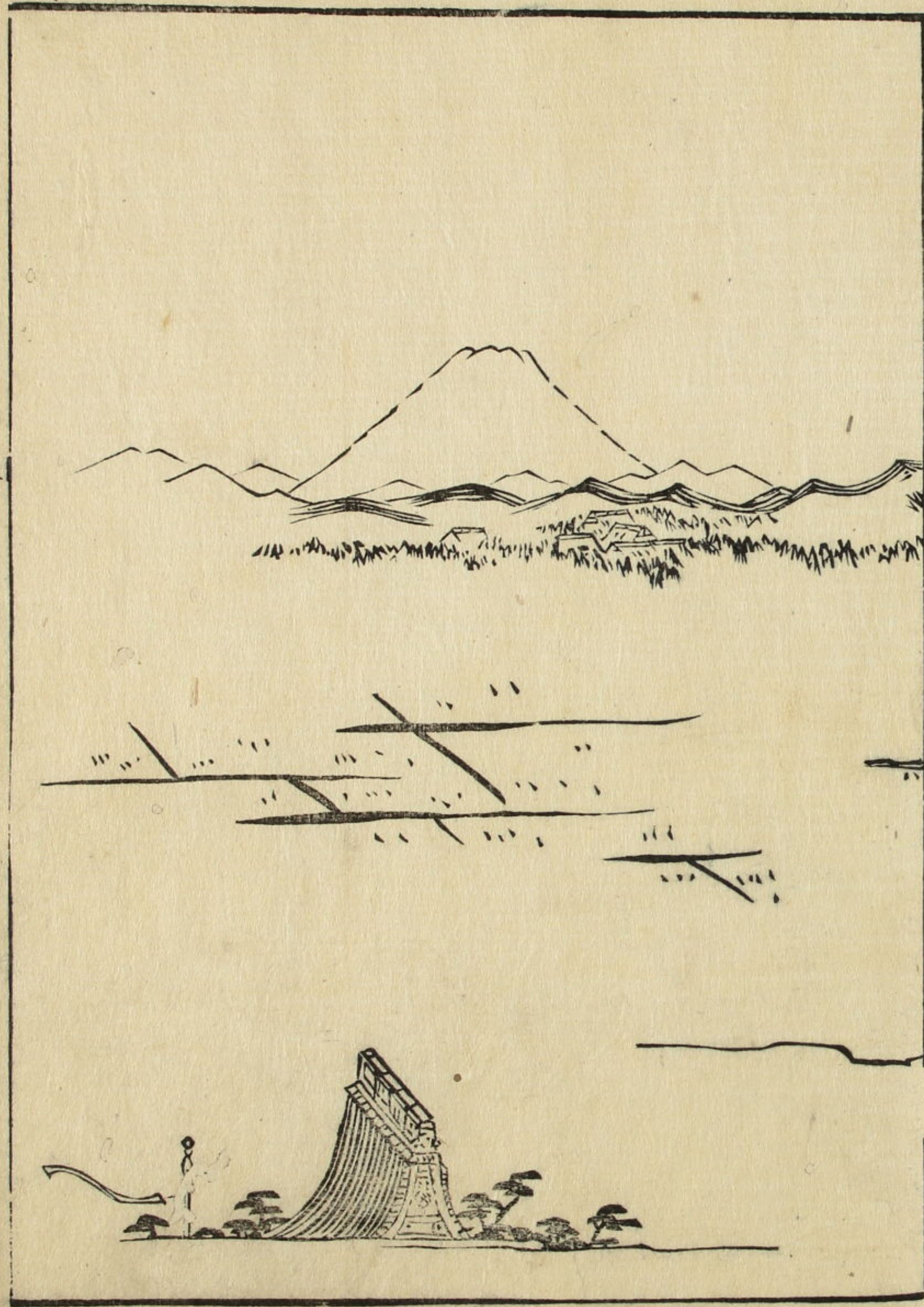
修之

富吉小入る

あつ

柳至





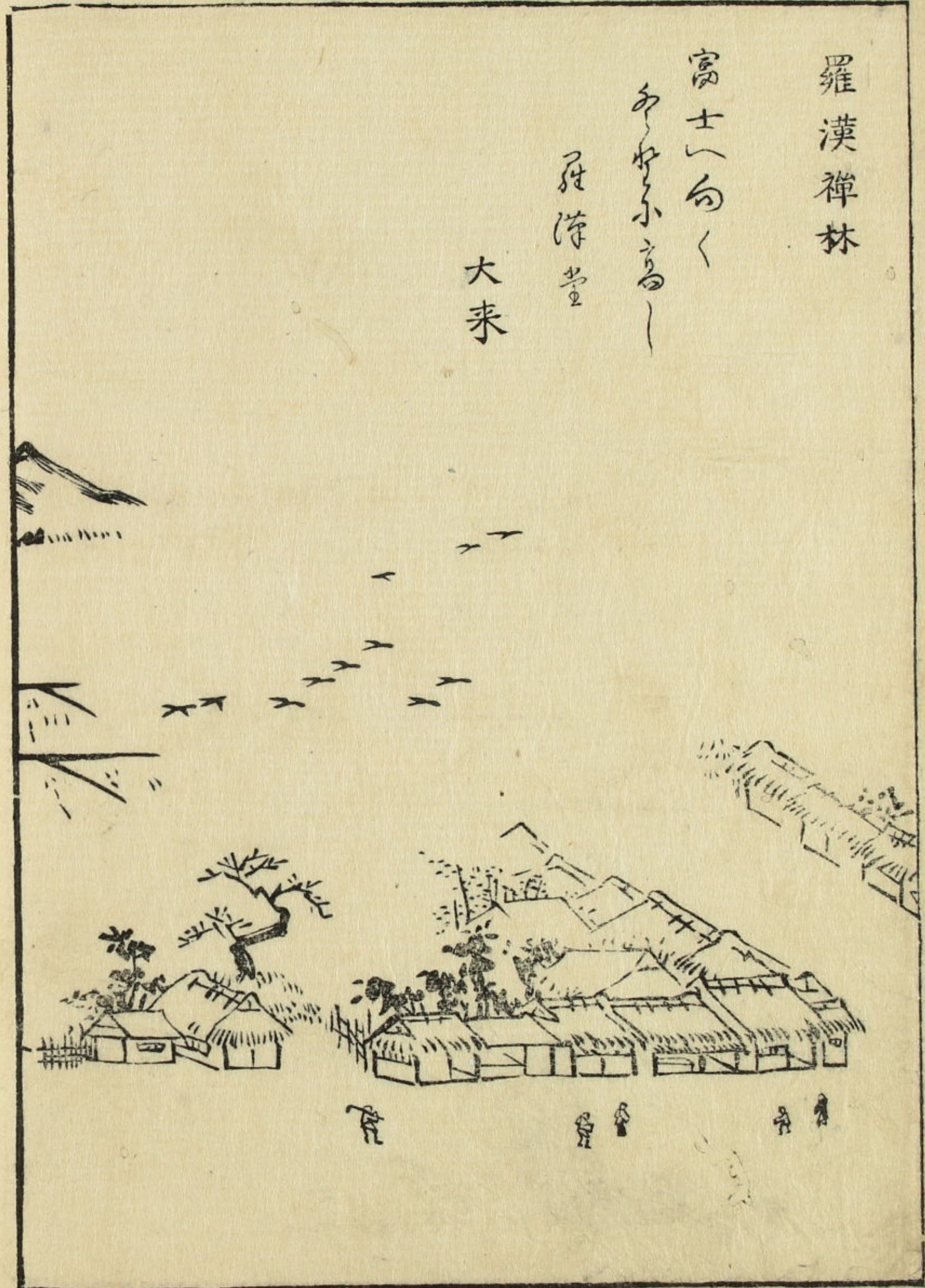
羅漢禪林

富士山向く

舟中不意

舟中堂

大来





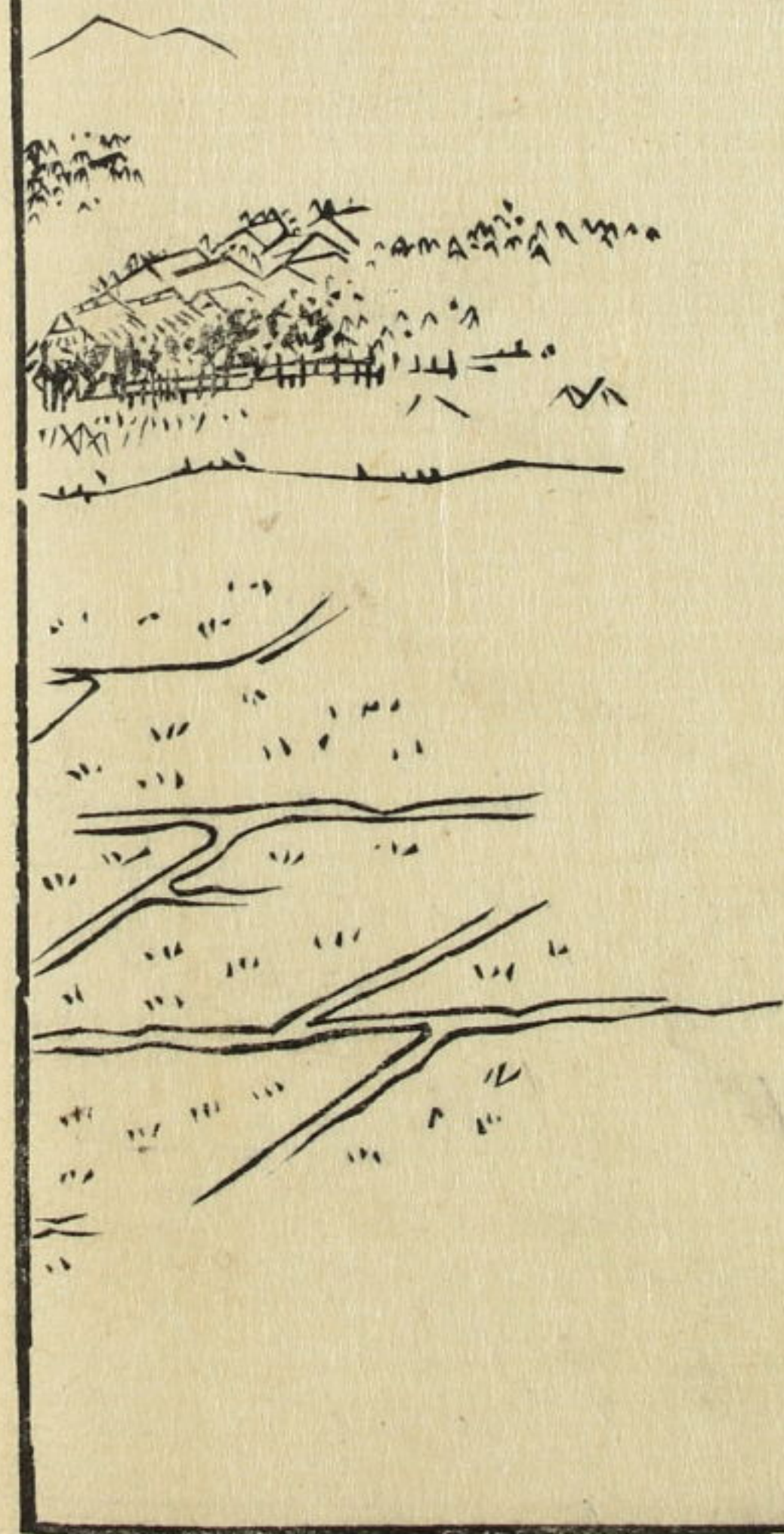
小松川 葛西

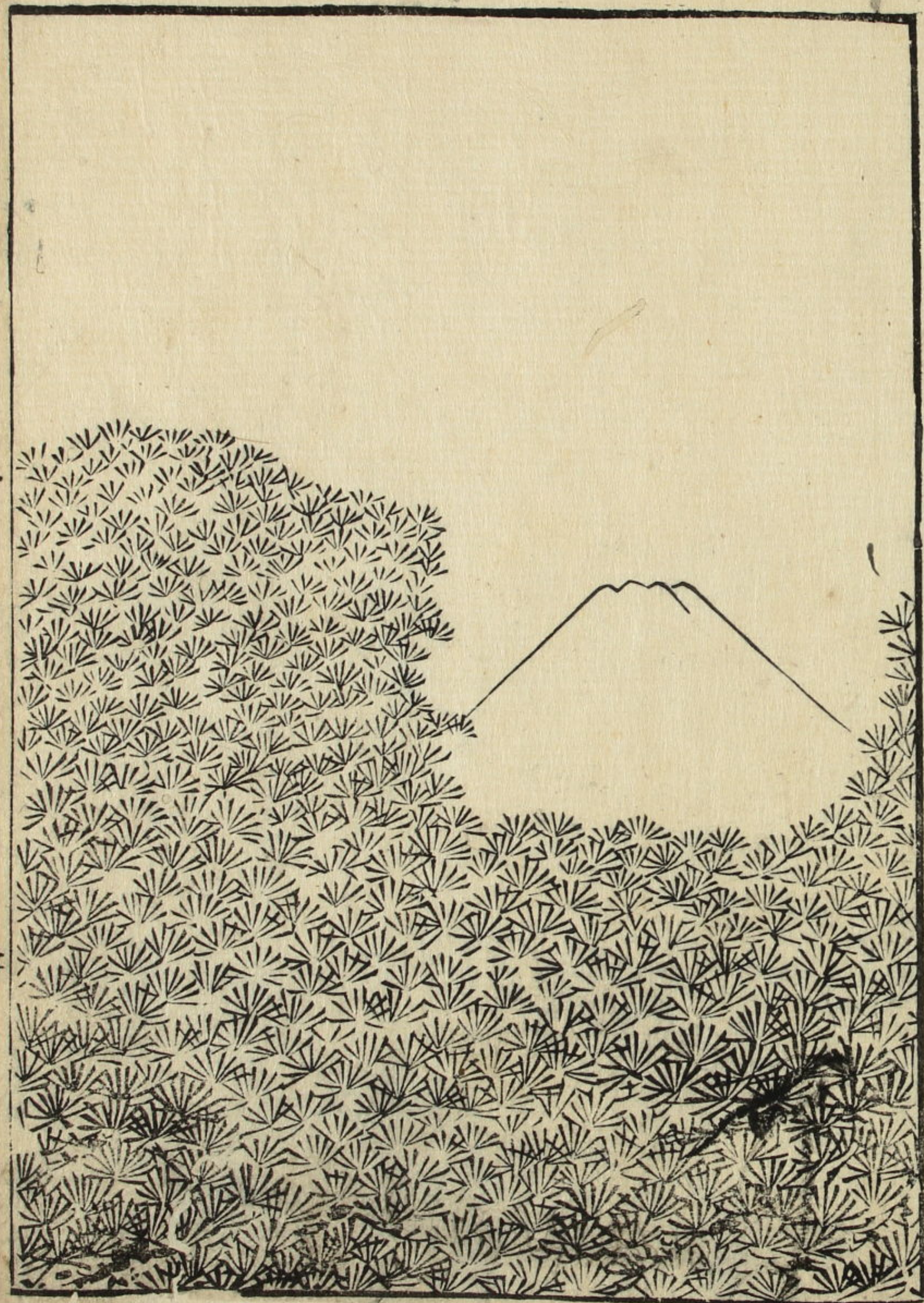
富士の

原を流るの

小松川

伯始

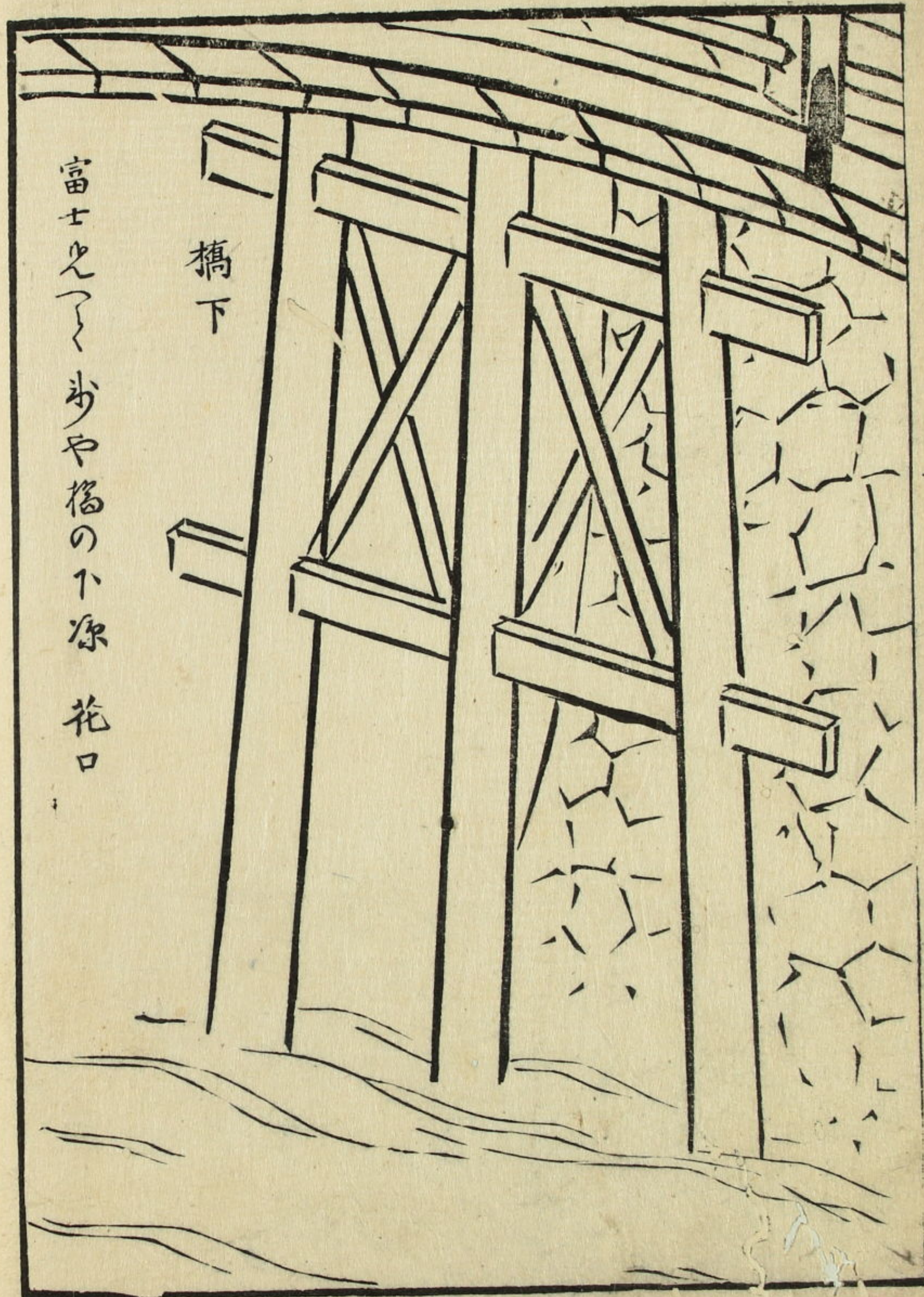




松間

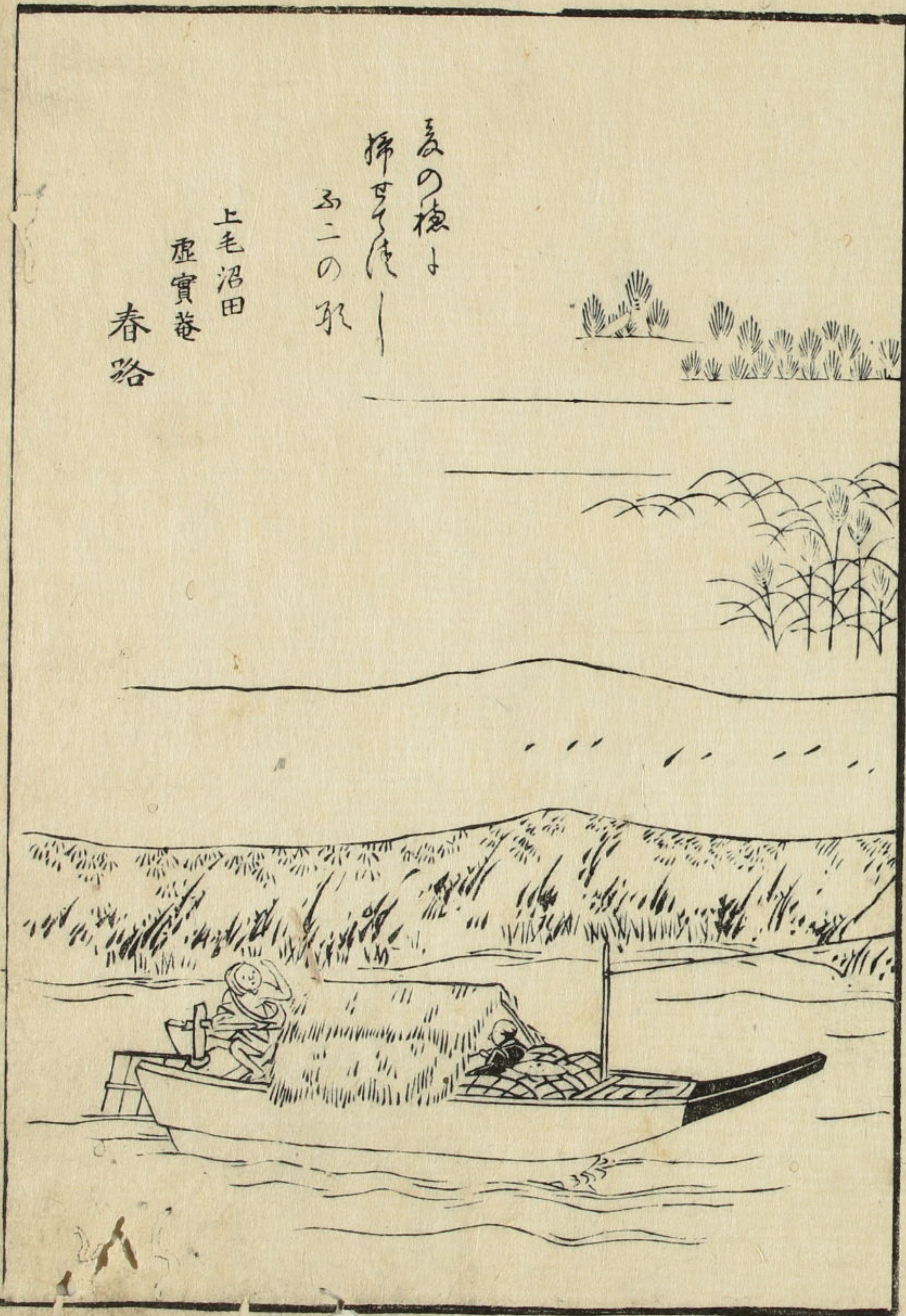
秀出玉芙蓉不厭隔松村
綠葉與山光相映自成趣

駿東 塩崎春稿



橋下

富士のくさや橋の下原花口







高白く何行
 里や富士
 武山
 耕雲舎
 老村



朝

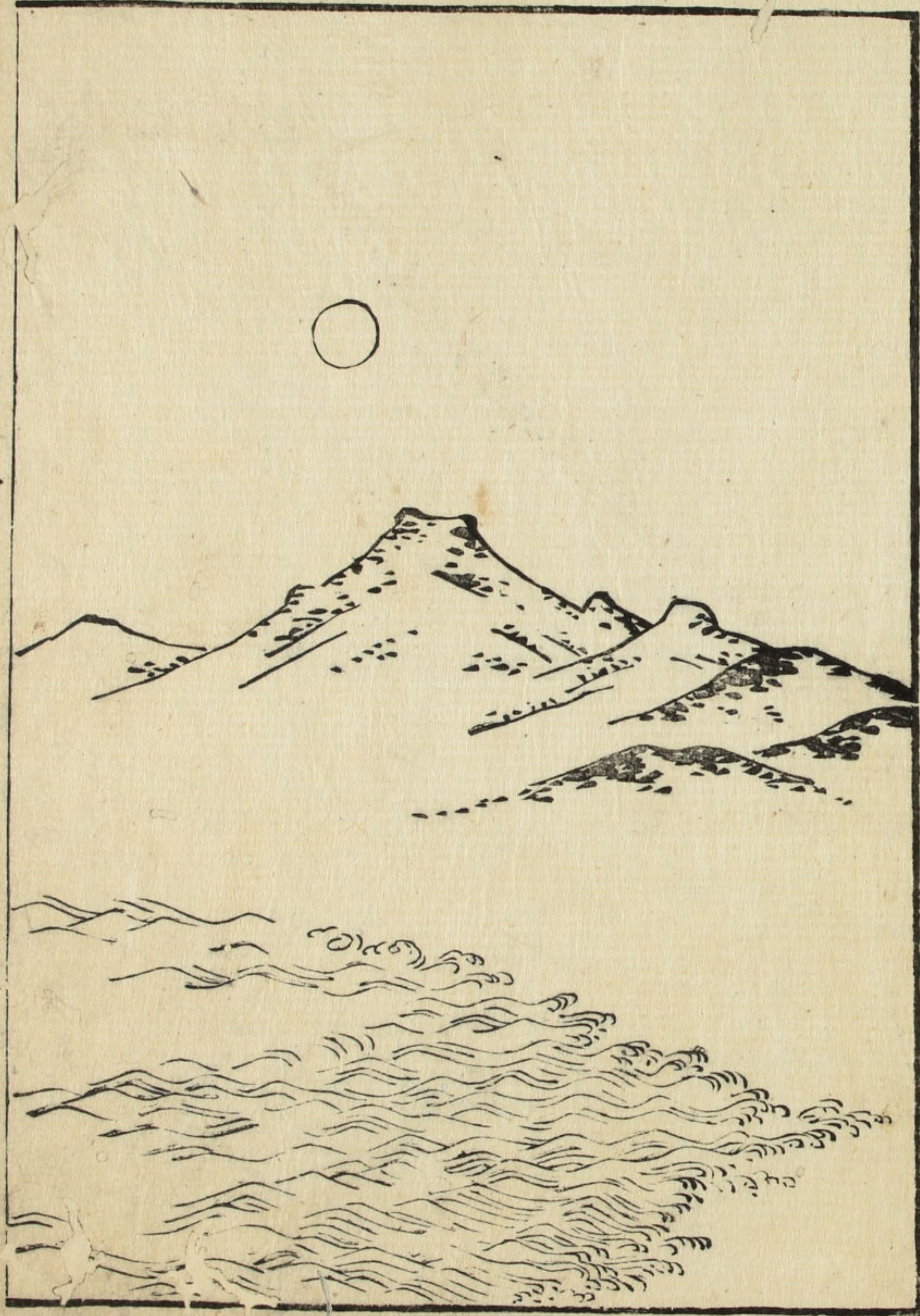


廣定

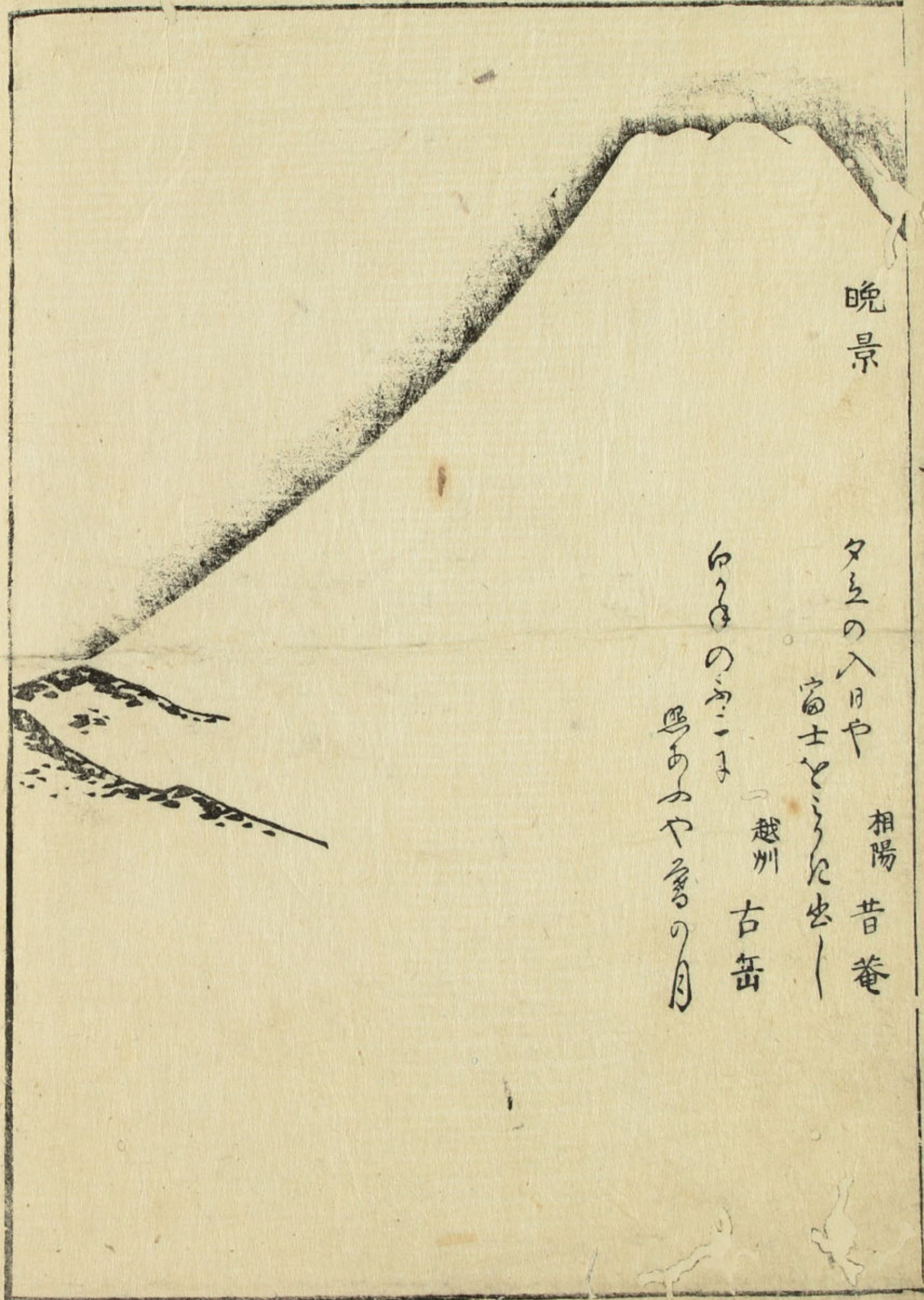
その名も
多うた
新の松の
糸のうす
思ふ身
あゝあ



雪後



木



晚景

夕立の入りや

相陽 昔菴

富士とていれ出

越州 古岳

白子の山

馬あやまの月



風

風の世家のふ

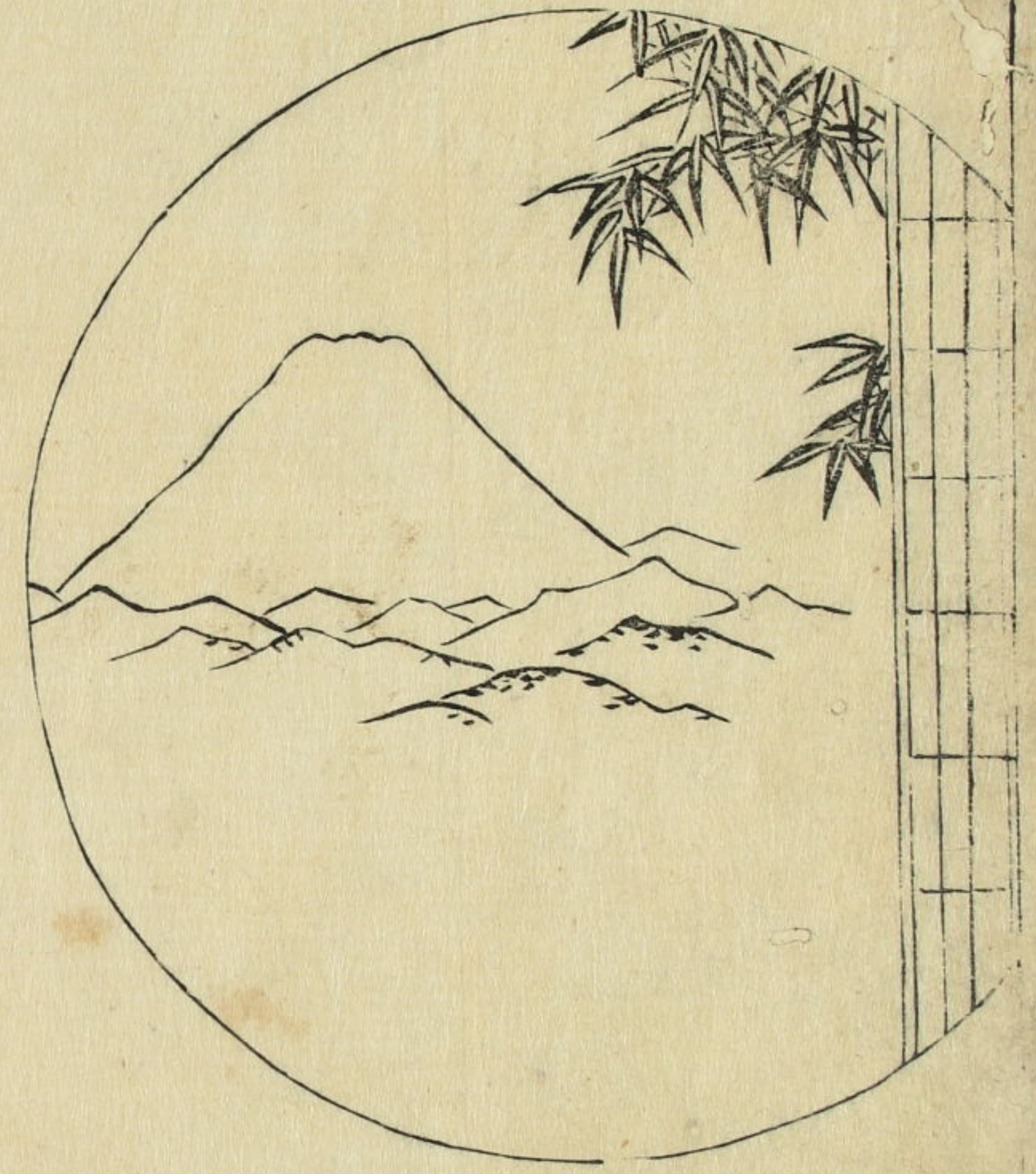
富士の原

寧波樓

浙江



窓中



層々あまも何々々富士 再蝶

